

2025年11月27日

各位

会 社 名 シンバイオ製薬株式会社
代表者名 代表取締役社長兼CEO 吉田 文紀
(コード番号 : 4582)
問合せ先 IR室 (TEL.03-5472-1125)

プリンシドホビルの悪性脳腫瘍（膠芽腫）に対する 動物試験による研究成果を米国・神経腫瘍学会において発表

シンバイオ製薬株式会社（以下、シンバイオ製薬）は、注射剤プリンシドホビル（brincidofovir, IV BCV）の悪性脳腫瘍（膠芽腫）に対する治療の可能性を示す研究成果を、第30回神経腫瘍学会（Society for Neuro-Oncology: SNO、2025年11月19～23日 米国ホノルル）においてポスター発表したことをお知らせします。

今回の発表内容は、さまざまな患者の脳から摘出された悪性脳腫瘍がそのままマウスで維持・継代されたマウスモデル（PDX）を主に用いた試験成績に基づいています。本実験において、BCV単剤による腫瘍の増殖抑制および生存延長効果という強い抗がん活性が確認されました。また、BCVと標準治療である放射線およびテモゾロミドとの併用により、これらの効果が顕著に増強されることを確認しました。さらに、腫瘍内のBCVとその活性化体であるCDV-PP*も検出され、悪性脳腫瘍の臨床試験開始に向けた有用な知見になると期待されます。

発表者の波佐間正聰 執行役員兼チーフサイエンティフィックオフィサーのコメントです。「このたび権威ある米国・神経腫瘍学会において、カリフォルニア大学サンフランシスコ校（UCSF）との共同研究の成果としてBCVの悪性脳腫瘍の新たな治療薬の開発の可能性を示唆することができ、大変うれしく思います。」

現在、当社は悪性脳腫瘍のほか、頭頸部がん、EBV陽性の胃がん、NK/T細胞リンパ腫の開発を進めており、このたびの研究成果は今後のBCVのがん領域の展開に向けた貴重な知見となりました。

以上

採択演題の概要

- 演題タイトル : *In vivo characterization of preclinical efficacy of brincidofovir against glioblastoma*
(膠芽腫に対するブリンシドホビルの生体における前臨床効果の特性評価)
- 発表者 : Sol Beccari, Tomoko Ozawa, David R. Raleigh, et al.
- 発表番号 : EXTH-54

神経腫瘍学会（SNO）について

1996年に設立されたSNOは、神経腫瘍の医学専門家、研究者、医療従事者、製薬業界の関係者が集まる、神経腫瘍とその治療法の研究で世界をリードする権威ある学会の一つです。同学会は、研究成果を共有する重要な場であるとともに、その活動は神経腫瘍学における大きな推進力となり、次世代の神経腫瘍学の科学者や臨床医に活力を与えています。

悪性脳腫瘍（膠芽腫）とは

脳の神経膠細胞から発生する脳腫瘍を神経膠腫（グリオーマ）と呼びます。その中でも進行が非常に速く、予後が悪いタイプがあります。最も悪性度が高いグレード4の膠芽腫では、診断後の中央生存期間は2ヵ月から18ヵ月と短く、5年生存率は5%以下です。なお、5年生存率が50%以下のがんは「難治性がん」と分類されます。その中の一つである膠芽腫は、国内で年間約2,000人、欧米では約21,000人の患者が発症すると推定されています。

現在の標準療法では、放射線照射との併用でテモゾロミドが使用されています。また、血管新生抑制薬であるベバシズマブ（商品名：アバスチン[®]）も用いられます。しかし、およそ半数の患者は標準療法であるテモゾロミドに対して耐性を示します。この耐性を克服する治療法はまだ確立されておらず、新しい薬剤の開発が強く望まれています。

*CDV-PP（シドホビルニリン酸）は、腫瘍細胞内に取り込まれたブリンシドホビル（シドホビルの脂質結合体）から生成され、DNA損傷応答を誘導することで抗腫瘍活性をもたらす起点となります。